

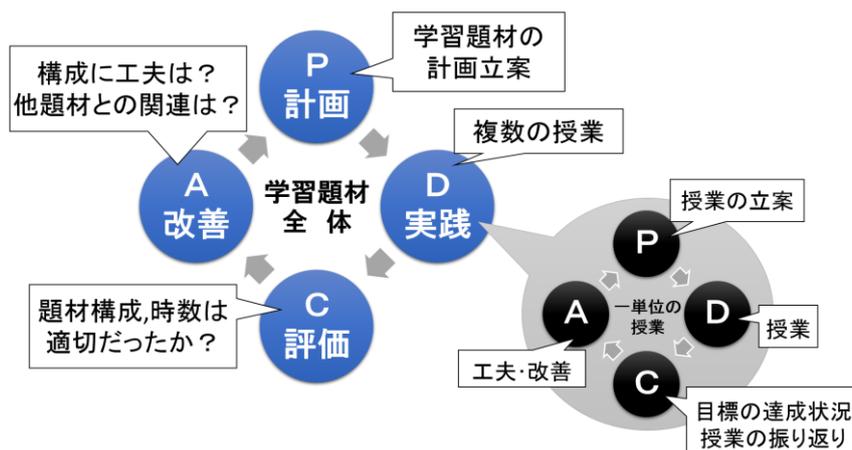
「できる・分かる・考える」授業作りについて

2019.3

◆授業作りについて◆

授業作りでは、「計画→授業実践→授業評価→改善」といった授業作りの手順，すなわち，PDCAサイクルを一つ一つ丁寧に追うことを重視した。一単位時間の授業における目標設定やそれを達成するための具体的な指導方法（指導のスキルやテクニック，障害に応じた配慮など）の在り方だけではなく，複数の授業によって構成される学習題材の在り方も含む大きな枠組みで取り組むことを念頭に置いて取り組んでいる。

児童生徒の「できる・分かる・考える」姿を引き出すことができたかという視点に絞って授業を評価し，具体的な改善策を協議して見出すなど，評価・改善についてグループ内で協働的に取り組んだ。また，授業を動画で記録して児童生徒の姿を丁寧に見取ったり，観点を絞った授業評価表を活用したりするなど，各グループで様々な創意工夫が見られた。



◆グループ別研究について◆

「できる・分かる・考える」授業を展開することは，これまでの授業作りの中で積み重ねてきたが，その一方で様々な課題が挙げられた。このため，本研究の前半では，各グループにおいて，児童生徒の「できる・分かる・考える」姿の洗い出しから始め，それぞれの教員が「できる・分かる・考える」についてどのように捉えているかを探ることにした。グループによって方法は様々ではあったが，日々の指導・支援から見える児童生徒の姿や教員一人一人の様々な思いを率直に語り合うことを通して，課題を共有することや新たな気づきを得ることができた。

また，それぞれの教員が現時点で考え得る「できる・分かる・考える」授業を公開し，相互に参観して意見交換をすることで，更に理解を深めていった。これらの取組を踏まえて，各グループの研究テーマ及び個人実践テーマを設定した。さらに，テーマ設定の過程で浮かび上がってきたキーワードについて整理し，各グループにおける授業作りの方針を設定した。個人実践は，この方針に基づき，教員一人一人が創意工夫しながら授業実践を積み重ねた。